

福島からの避難者を囲んで

11月4日 トークショーを開催 イーグレひめじにて



●避難した人も「原発事故さえなかったら娘が何度も転校しなくてよかったのに」と言われ、実家は安心して帰れる場所ではなく故郷を失ってしまったよつ…と訴えられた!!
娘さんも「本当にこれでよかったのか、いつも思い返している」と打ち明けられた!!
●残った人は、線量は高いが、代々の土地、田畑や墓がある、家畜がいる…心の葛藤は尽きない…!!

西はりま熟年者の会は、11月4日(土)、pm1:30~5:00、イーグレひめじで、福島第1原発爆発事故の放射能被害から兵庫県に避難してこられた方々を迎えトークショーを開催しました。

爆発事故から2年半を経過し、マスコミは、小泉元首相の「核廃棄物の処理場が無いまま原発再稼働は無責任、原発ゼロへ」の発言の他は、現地の状況や被災者の様子を殆ど報道しなくなり、原発事故は風化しつつあります。

避難者の方々から、現地の状況、被災者の実情を聞き、改めて原発は人間と共存できないことを再確認し、脱原発の正しさを確認しました。

福島の現状を絵で伝えたい

講演では、伊達市で被曝し明石市へ避難している画家のあとりえとおのさんは、放射能から幼子を守る母親の絵を示しながら放射能の恐ろしさ、被災者の不安な心情を訴えました。

生命より大切なものはない

郡山市から市川町へ避難している渥美美紀さん母子は、爆発当時正しい情報を知らされないまま飲料水や食糧に対する不安から避難を繰り返し、今も夫は単身赴任の生活をしています。

自主避難のため、国や東電からの補償は一切無く、今後の生活に不安があり難渋の生活をしています。

そのため、避難先でのネットワークづくりを始め、福島の間人たち(3a郡山)と連携しながら、2度とこの様な悲惨な事故を起こさないために再稼働反対、脱原発を目指し活動しています、と報告されました。

姫路でも脱原発の活動を

姫路市の佐野宏美さん、「原発事故を考える姫路市民の会」を立ち上げ、どこでも誰でも放射能健康診断「署名」などの活動を播磨の地で組んでいる報告がありました。

熟年者の会も原発事故を風化させず、脱原発の運動を広げましょう!!

福島への思い 絵に込め



自宅に絵を描くあとりえとおのさん(明石市西明石北町)

とのおのさんは早稲田大卒業後、地元伊達市に戻って福祉関係の仕事に就いた。しかし、仕事になじめず、職を転々。高校時代から描いていた絵を仕事にしようとして創作中に東日本大震災が起きた。

実家の伊達市は福島第一原発から約50キロメートル。「避難先は福島の外へ」と思いながら、避難先をあてはなない。子どもがいるため先に県外に避難した妹の状況をモチーフに、子を抱える女性を描いた「母子」や、県内の仮設住宅で暮らす被災者の不安や叫び、放射線への恐怖などをオイルパステル(クレヨン)で描き続けた。作品はカフェや原発廃棄物などでも展示した。

転機は地元で2012年9月に開いた最初の個展。立ち寄った姫路市の福祉団体関係者からの依頼で、1ヵ月後に姫路でも個展を開き、それが縁となって明石市に避難した。

とのおのさんは「暗い話題は口にしてはいけない」と、無言になってしまうのが一番怖いこと。不安、恐怖を表に出すからこそ、祈りや希望、明るい面が見えることを伝えたい」と話す。

展示作品は「命」をテーマに描かれた母子像など約20点。無料。トークショーは午後1時半~午後5時、絵を紹介しながら語る。入場は先着50人。

(遠藤和香)

命テーマに20点

あす姫路で展示・トーク

明石に避難とおのさん



新聞にも大きく掲載され(佐記と神戸)、紙面を見て来られた人を含め30人余の参加、会場からも多くの発言、被災者の尽きない悩みや心の葛藤を知り、有意義な取り組みとなりました。